

# 関中央病院グループにおけるQC検定の導入・活用事例

医療法人香徳会 関中央病院グループ  
診療技術部 亀山泰信

## 【はじめに】

医療法人香徳会関中央病院グループ（以下：関中央病院グループとする）ではTQMを病院経営に有用なマネジメントツールと考えた病院長の提案により、2004年にTQM活動を開始しました。さらにその翌年の2005年にはQC委員会を発足し、そこから関中央病院グループでのQC活動が始まり、12年間QC活動を継続して行っています。また、QC活動の一環として、2006年3月に第1回QC大会を開催し、2010年には小改善活動を始め、2016年に第15回のQC大会と第10回の小改善コンテストを同時開催しました。

さらに支援活動として、2005年4月に品質管理学会の公募研究会として発足した中部医療の質管理研究会（以下：CMQMとする）の会員病院との交流を通し、QC活動・小改善活動を活性化しています。

## 1. 施設紹介

【施設名】医療法人香徳会 関中央病院グループ

【住所】岐阜県関市平成通2-6-18

【施設概要】◇関中央病院（2014年11月以降）

一般病床50床、回復期リハビリ病床50床 療養病床50床

◇介護老人保健施設 太陽苑 50床 ・デイケアセンター

◇訪問看護ステーション ・居宅介護支援事業所

◇グループホームあさひ ・デイサービスセンター

◇関連施設 社会福祉法人（2016年4月） 特別養護老人ホーム せきこもれび

地域に根ざして  
130周年



2005年度  
2010年度の  
国勢調査で日本の  
人口中心地となっ  
た関市

<https://www.sekichuo.jp/>

岐阜県関市は、2005年度（平成17年度）、2010年度（平成22年度）の国勢調査で日本の人口中心地となった日本のほぼ真ん中に位置し、豊かな山々と清らかな川に生まれ、「刃物のまち」として知られています。

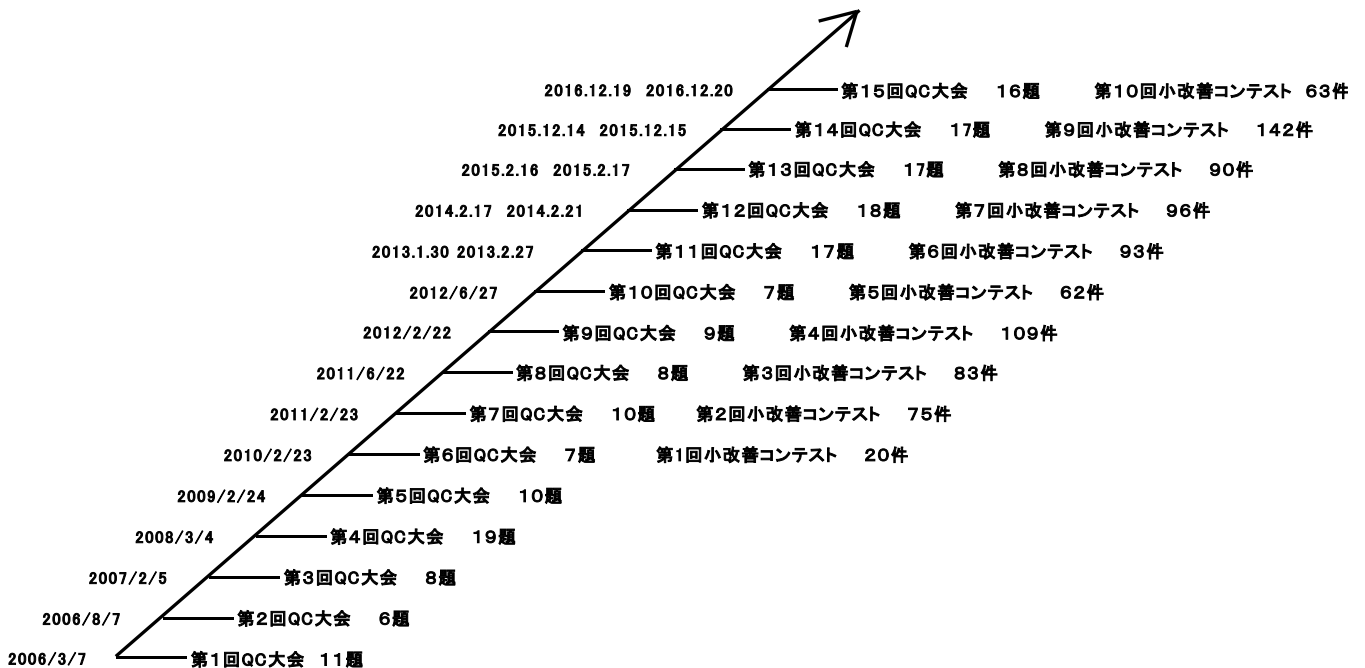
関中央病院グループの歴史は古く、1884年（明治17）に西尾医院として始まり、1996（平成8年）関中央病院に名称を変更して、2013年（平成25）7月に130周年を迎えました。一般病床50床、回復期50床、療養病床50床の150床の病院、介護老人保健施設50床を隣接しており、訪問看護ステーション、グループホーム あさひで構成されています。

関中央病院グループの理念として、医療法人香徳会の理念「私たちはすべての方に喜んでいただけるヘルスケアを提供します」を掲げています。さらに、関中央病院グループの基本方針として、「1. 地域の医療・福祉に貢献します 2. 安全・安心・良質な医療・福祉を提供します 3. チームで、医療・福祉を実践します」の3つを掲げています。

## 2. QC検定導入の経緯

支援活動としてのCMQMの会員病院の中のある病院がQC検定に力を入れているということを知り、当グループも改善のレベルアップを図るために2015年にQC検定取得を考え、QC委員会のメンバーから数人で受検を始めました。

### 関中央病院グループQC大会年表



## 3. QC検定取り組みの具体例

当グループでは改善委員会がQC活動と小改善活動を行っています。その一環として、QC検定の受検も推進しています。受検に際してはすべてが自己負担ですが、委員からの声掛けで受検にチャレンジをしてくれています。

学習方法としては、業務終了後に集まり、テキストを中心とした勉強会を行っています。しかし、テキストだけでは時間が足りず、講師が用意してくれた問題と講師がポイントをまとめてくれたもの

が大変参考となります。勉強会は受検前に2回ほど行いました。

講師については、最初の受検時は改善委員会のメンバーの中に、以前に企業に勤めていた3級取得者の委員がいたため、お願いをして講師となってもらいました。翌年からはQC検定合格者が講師となって指導をしています。

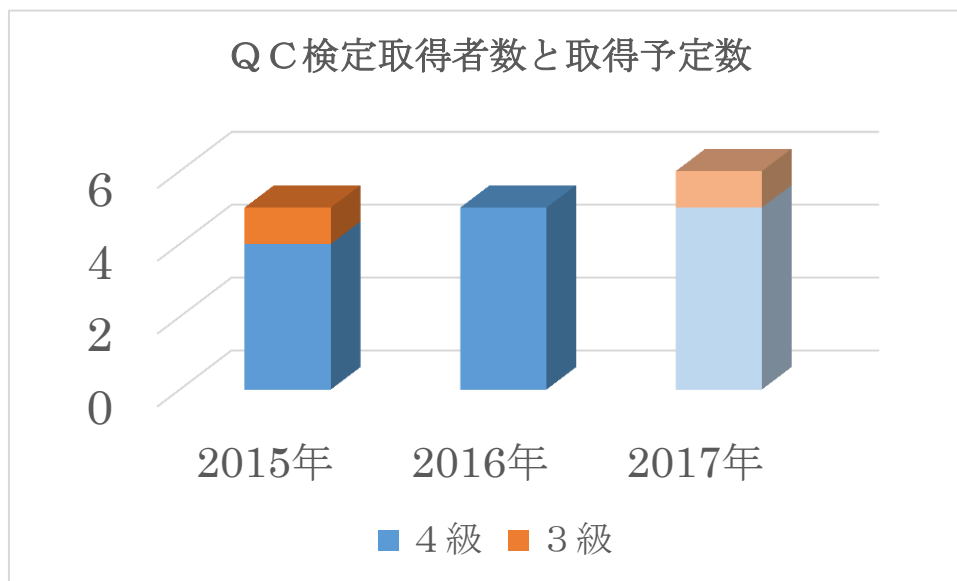
テキストは4級の場合は、あらかじめ、QC検定センターに使用許可を取り品質管理検定（QC検定）4級の手引きを受検者に配布しました。3級については自分達でテキストを購入してもらいました。

#### 4. QC検定受検者状況・実績

##### 【受検者数】

関中央病院グループ全体の人員は約320人であるのに対して、合格者数は3級が1名、4級が9名と大変少ないです。

QC検定の導入開始が2015年とまだ日は浅く、初回が5名受検で4級4名、3級1名合格。2回目の2016年では、4級を5名が受検し、全員合格という結果でした。2017年は6名での挑戦を予定しています。まだまだグループ内で浸透していないですが、今後も受検を啓蒙していきたいと考えています。



##### 【合格者の声】

**4級合格者 看護部 看護師長 渡邊 佳美 (2015年)**

##### 【受検の動機】

当院でQC活動を始めたのは2005年の頃です。病院長がTQM活動の推進をされ、翌年には各部署が年1回QC活動報告（QC大会）を行うことになりました。しかし、知識不足である私は、自部署のQC活動でありながら、勉強されている他部署のスタッフに教えてもらいながらの活動になっていました。毎年行われるQC大会がどんどんレベルが上がっている状況で『これではいけない』とあせりを感じ、受検を決意したのが正直な気持ちです。

#### 【受検前、受検時の感想】

他職種間で構成されているQC委員会のメンバー5名で、まずはQC検定を受検することにしました。すでに前職場でQC検定3級を取得されている職員に夜、業務が終わったあと会議室で勉強会を開催してもらい、出題のイメージや試験当日の注意事項などを聞くことができました。

『QC検定』という言葉もまだ浸透しない職場で、なんとか委員のメンバー全員が合格できるよう『仲間』という一体感があった期間で良い思い出でした。

ちなみに受検者全員合格することができました。

#### 【合格後仕事に活かされたこと】

受検のきっかけが部署のメンバーに指導が行えるようになることでしたので、QCストーリーに沿った展開を意識し、また根拠を持って話をするように心がけています。

またQC勉強会を年2回の実施と、今期のQC検定受検者に対し勉強会を開催することができました。

今後はさらにQC検定取得者を増やし、当院のQCのレベル向上に努めていきたいと思えます。

---

### 4級合格者 診療技術部 放射線科科长 吉村 成雅 (2016年)

#### 【受検の動機】

当院では以前よりQC活動が盛んであり、これまでに何度もQC勉強会が行われてきました。その中では、QCの進め方、QC七つ道具についてなど教えていただきました。しかし、通常の活動ではこれらQC手法のすべてを活用することなく活動しており、QC活動を進めていくためにはQC勉強会だけでは限界を感じました。そのような時期にQC検定の案内があり、原点に戻りQC活動を充実させるためのチャンスだと思い受検することにしました。

#### 【受検前、受検時の感想】

試験勉強を始めて、言葉をしっかりと理解していなかったことに気付きました。思い込みや思い違いを正すことが大変でした。

#### 【合格後仕事に活かされたこと】

どのような状況においてもQC七つ道具を用いることにより、何が問題であるのかがはっきりわかるようになり、それを分析し解決法を導くことができるようになりました。

---

### 4級合格者 診療技術部 薬剤科科长 酒向 幸 (2016年)

私は病院に勤務していますが、院内の勉強会で製造業では当たり前に行われているという改善活動を知りました。その後、習ったことを自分なりに職場で実践をしてみました。さらにQCストーリーを学んできちんと実践していくと、過去に解決できなかった問題も解決できるという実感を持つようになりました。QCを理解できているのか、外に出ても通用する力があるのか、というのを試す気持ちで4級の検定を受けることにしました。その頃同じように考える同僚も数名いて、先に合格している人から重要なポイントのレクチャーを受けながら、グループ学習したことが、合格の鍵となりました。QC検定4級の内容は、QCストーリーの内容から社会人として身につけるべき仕事のマナー的なものもあり、働き始めてかなり時を経て忘れがちだったことを改めて復習できたと思えます。全国で通用する検定試験の合格証を持っているということが、これからのQC活動の励みになっており、また頑張って職場で活かそうと思いました。

**3級・4級合格者 事務部 総務課 システム担当 大野 慎也 (2015年)**

**【受検の動機】**

私は職場内で改善委員会に所属しており、新人研修等においてQCや小改善に関する講義を担当していました。ある日、講義を受ける側の立場になって考えたところ、「実際にQC手法を仕事で活かすためには、どれくらいの知識が必要なのか。」という指標がないことに気づき、自分がその1つになればと思い受検しました。

**【受検前、受検時の感想】**

当初はテキストの内容を読んでから問題を解いていたのですが、なかなか頭で整理できなかったため、「いきなり過去問を解き、間違えたところを重点的に復習する」という勉強方法を繰り返し行いました。最初の頃はなかなか知識が定着せず大変でしたが、毎日30分～1時間ほどの学習を続けることにより、無理なく徐々に理解を深めていくことができました。

**【合格後仕事に活かされたこと】**

仕事を進めていく中で少しでも窮屈さを感じたら、その原因を掘り下げる習慣がつかしました。勿論、すぐに解決できることばかりではありませんが、物事をミクロとマクロの両方の視点から客観的に考えられるようになったと思います。特に、他部署の職員・外部関係者・業者様と連携を図っていく中でその習慣が非常に役立っており、相互の仕事効率の向上を実感しています。

**5. QC検定に期待すること**

関中央病院グループは、今後もQC活動を継続していきたいと考えています。その中でQC手法を職員全員が理解をし、正しく実践でき、知識の向上につながり、グループ全体の活性化ができると良いと考えます。

今後、QC検定の受検率を上げ、1人でも多くの取得を目指し、職場の問題解決に活用出来るように推進していきます。

**6. 学校（学生、生徒）に期待すること**

医療界ではQC検定は製造業と違ってあまり知られていません。しかし、私たち病院職員が実際に受検してみて、QC検定は社会人としての教育に役立ち、更に改善への知識が向上し、医療の現場でも実践に役立つものであることを実感しています。

今後も多くの方々がQC検定へチャレンジされることを推奨したいと思います。